

沖縄県DX推進計画 PDCA検証結果 | 概要 (対象年度: 令和6年度)

< 2025/XX/XX >
企画部デジタル社会推進課

INDEX

1	沖縄県DX推進計画概要	P3
2	PDCA検証方法	P4
3	(1) 検証結果 評価視点1 各取組の進捗状況	P5
	(2) 好事例	P6
	(3) 大幅遅れ・未着手の取組	P8
	(4) 進捗状況ダッシュボード(部局別)	P9
4	検証結果 評価視点2 沖縄21世紀ビジョンへの貢献	P10
5	検証結果 評価視点3 DX推進の取組状況	P11
6	計画の更なる推進に向けて	P15



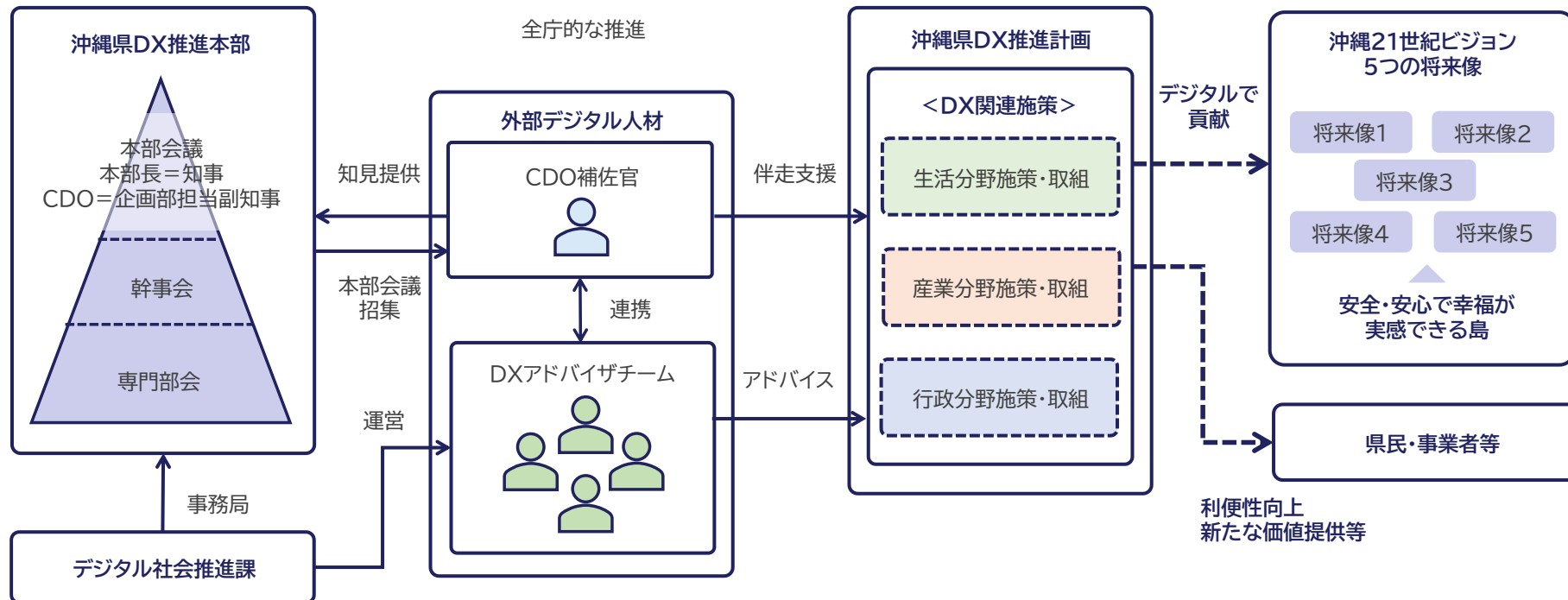
1 沖縄県DX推進計画概要

<背景>

- デジタル技術は、社会課題の解決や経済・産業構造の変革等を図り、持続的発展を実現するために欠くことのできないツールとなっている。
- 沖縄県では、沖縄のあるべき姿/ありたい姿を描いた「**沖縄21世紀ビジョン**」の実現に向けて、「**新・沖縄21世紀ビジョン基本計画/実施計画**」をデジタル技術の面から支え、DX関連施策の計画的かつ総合的な推進を図るべく、令和4年9月に「**沖縄県DX推進計画**」を策定した。

<DX関連施策の推進>

- 行政だけでなく、福祉、医療、教育といった生活、観光、商工、農林水産といった産業の**3つの分野ごと**に、DX関連施策を推進する。
- 知事を本部長とする**沖縄県DX推進本部**のもと、**外部デジタル人材**の専門的な知識経験も活用し、DX関連施策を推進する。



機運醸成・職員育成/推進支援/PDCA検証等

2 PDCA検証方法

<概要>

- 沖縄県DX推進計画においては、DX関連施策の着実な推進を図るため、PDCAサイクルによる検証や取組の改善を毎年度実施する。
- **令和6年度**における取組について、3つの視点により検証を実施した。

<3つの視点>

- 評価視点1では、各取組の進捗状況を評価する。評価視点2では、沖縄21世紀ビジョンの実現と本計画の関係を整理する。評価視点3では、DXの推進に向けた体制整備、ITシステム基盤構築・運用体制の整備状況等を評価する。

評価視点1 各取組の進捗状況

<概要>

- 各取組の進捗状況を5段階で評価するとともに、課題を踏まえた今後の取組方針、改善策等を整理する。

<評価方法>

- 取組所管課にて、活動指標の実績値を算出、それを元に進捗状況を評価する。
- 評価は、順調、概ね順調、やや遅れ、大幅遅れ、未着手の5段階とする。

評価視点2 沖縄21世紀ビジョンへの貢献

<概要>

- 沖縄21世紀ビジョンとの関係性を意識した計画の推進に向けて、将来像ごとにDX関連施策の紐付きを整理する。

<評価方法>

- 事務局にて、各取組の性質や新・沖縄21世紀ビジョン基本計画等を踏まえ、将来像との紐付きを整理する。

評価視点3 DX推進の取組状況

<概要>

- DX推進体制やITシステム基盤の構築・運用体制の整備、国の自治体DX推進計画への対応状況等について、評価項目を設定の上、評価する。

<評価方法>

- 事務局にて、評価視点1の評価結果等を踏まえ評価する。
- 評価は、レベルA、B、C、D、Eの5段階とする。

3 (1) 検証結果 | 評価視点1 各取組の進捗状況

<概要>

- 評価視点1に基づく検証では、本計画施策集に掲載する**169**の取組(再掲を除く)のうち、進捗状況が「順調」・「概ね順調」となった取組は**144件**であり、**全体の85.2%**を占めていることから、令和6年度における取組は総じて順調であったものと判断できる。
一方で、「大幅遅れ」・「未着手」となった取組が**21件(全体の12.4%)**あり、これらの取組については、今回の検証で把握した課題や要因を踏まえ、外部環境の変化や優先度の高まりに応じて、取組の見直しやより効果的な取組の検討を進めていく。
- 取組の更なる推進に向けては、各取組を所管する所属において検討・整理を行った改善策を着実に推進するとともに、CDO補佐官やDXアドバイザーチームといった外部デジタル人材の専門的な知識・経験を活用しながら、事務局が各所属に積極的にアプローチし、課題解決に向けた技術的助言、好事例などの情報提供等の支援を引き続き実施していく。

■進捗状況

分野	順調		概ね順調		やや遅れ		大幅遅れ		未着手		合計	
	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合	件	割合
生活	52	73.2%	5	7.0%	1	1.4%	12	16.9%	1	1.4%	71	100%
産業	46	79.3%	4	6.9%	2	3.4%	3	5.2%	3	5.2%	58	100%
行政	31	77.5%	6	15.0%	1	2.5%	2	5.0%	0	0.0%	40	100%
合 計	129	76.3%	15	8.9%	4	2.4%	17	10.1%	4	2.4%	169	100%

3 (2) 好事例

生活分野 | 離島ICT利活用人材等高度化事業

(企画部 地域・離島課)

<取組内容>

- 離島住民を対象にテレワーカー等として育成することで、離島に住み続けながら沖縄本島や本土企業から業務を受注することを可能とし、遠隔不利性を解消し収入源の確保を図る。

<R6年度活動概要/R7年度改善案>

- R6年度は、登録済テレワーカー(R6年度末時点・累計907人)を対象に高度人材育成研修や、テレワーカー・業務発注側事業者向け説明会を開催し、テレワーカーの業務受託の促進を図った。
- 今後は、単価の高い業務を安定的に受注できる環境整備を行い、拠点型テレワークの推進によるテレワーカー受注業務の高付加価値化を図る。

<イメージ/進捗状況>



説明会開催数 **50回**
目標達成度 **167%**

進捗状況: **順調**

産業分野 | データに基づくターゲットマーケティングの推進

(文化観光スポーツ部 観光政策課)

<取組内容>

- 観光客が訪れた観光地や観光ルート、滞在時間などの人流データを収集し、居住地、性別、年齢の属性別、季節毎に行動歴等の調査分析を行い、データを活用したターゲットマーケティングの推進を図る。

<R6年度活動概要/R7年度改善案>

- R6年度は、スマートフォンアプリからGPS位置情報データを収集するとともに、収集したデータを調査分析することにより、ターゲットマーケティングへの展開に繋がった。
- R7年度は、国内観光客だけでなく、外国人観光客についても観光スポットへの行動歴の分析を行えるよう計測スポットの追加等を検討し、改善を図る。

<イメージ/進捗状況>



データ収集 **364,856件**
目標達成度 **1,216%**

進捗状況: **順調**

3 (2) 好事例

産業分野 | 次世代型環境制御施設等の研究・開発の推進

(農林水産部 農林水産総務課)

<取組内容>

- センサーやモニタリング技術を活用し園芸施設内環境の改善を図るとともに、生産現場に導入可能な低コスト園芸施設を開発する。

<R6年度活動概要/R7年度改善案>

- R6年度は、環境観測機器を5カ所の優良農家に設置し、年間を通じて栽培環境データの収集と環境制御の効果について解析した。
- R7年度は、亜熱帯気候における栽培環境及び施設内環境制御に関する専門家からの知見収集等を行い、生産性の向上等に関する研究を実施する。

<イメージ/進捗状況>



産官学連携等
による研究取組数 **1件**
目標達成度 **100%**

進捗状況: **順調**

行政分野 | 市町村のDX支援(情報システムの標準化・共通化)

(企画部 デジタル社会推進課)

<取組内容>

- 県内市町村の自治体DX推進に向けた取組を支援するため、各種研修会やワーキング会議の開催、伴走型支援等を実施する。

<R6年度活動概要/R7年度改善案>

- R6年度は、各種研修会や市町村とのワーキング会議の開催、DX推進体制等に課題のある市町村への伴走型支援の実施等により、市町村における自治体DX推進の取組を促進した。
- 令和7年度は、県内市町村において、基幹業務システムの標準準拠システムへの移行が確実に完了できるよう、伴走型支援の必要がある市町村の支援を行う。

<イメージ/進捗状況>



調整会議等 **28件**
目標達成度 **112%**

進捗状況: **順調**

3 (3) 大幅遅れ・未着手の取組

PDCA 対象年度	対象取組数	進捗状況				
		順調	概ね順調	やや遅れ	大幅遅れ	未着手
R6	169 100%	129 76.3%	15 8.9%	4 2.4%	17 10.1%	4 2.4%
R5	166 100%	139 83.7%	12 7.2%	3 1.8%	12 7.2%	0 0.0%

【進捗状況の区分】

- ・「順 調」：年度別計画どおり又はそれ以上の取組を推進している（90%以上）
- ・「概ね順調」：年度別計画と比較して概ね取組を推進している（75%以上～90%未満）
- ・「やや遅れ」：年度別計画と比較して若干の遅れがある（60%以上～75%未満）
- ・「大幅遅れ」：年度別計画と比較して大幅に遅れている（目安：実績値が目標値の60%未満）
- ・「未 着 手」：年度別計画に示した活動に未着手

■大幅遅れの取組(17件)

取組名	担当部局
交通安全施設等整備事業	警察本部
赤土等流出防止対策推進事業	環境部
空手に関するアプリケーションの開発	文化観光スポーツ部
インターネットを活用した空手愛好家の交流の促進	文化観光スポーツ部
オンライン研修受講環境整備に対する支援	保健医療介護部
防災危機管理センター棟(仮称)整備事業	総務部
沖縄県総合行政情報通信ネットワーク通信機器改修	企画部
沖縄県総合行政情報通信ネットワーク通信施設改修	企画部
道路メンテナンス事業	土木建築部
沖縄県生涯学習情報提供システムの整備・充実	教育庁
遠隔講義配信システムの運用	教育庁
SNSによる情報発信の強化	教育庁
チャットボットの利活用	文化観光スポーツ部
スマート農業に適した農業農村整備の推進	農林水産部
情報通信産業振興地域・特区制度	商工労働部
沖縄県5G等基地局設置支援ワンストップ窓口の運営	企画部
職員の情報セキュリティ能力等の向上	企画部

■未着手の取組(4件)

取組名	担当部局
沖縄平和啓発(継承)プロモーション事業	知事公室
テレワークによる障害者雇用促進事業	商工労働部
コンタクトレス決済端末機導入整備事業	文化観光スポーツ部
スマート農林水産技術の実証	農林水産部

■大幅遅れの要因分類

- ・ 執行管理:想定を上回る工数増等によると思われるもの …7件
- ・ 情報発信:周知活動、認知度向上に課題があると思われるもの …6件
- ・ 外的要因:不測の事象、外部環境の変化等によると思われるもの …3件
- ・ スキーム:事業スキーム、ターゲット設定等に課題があると思われるもの …1件

■未着手の要因分類

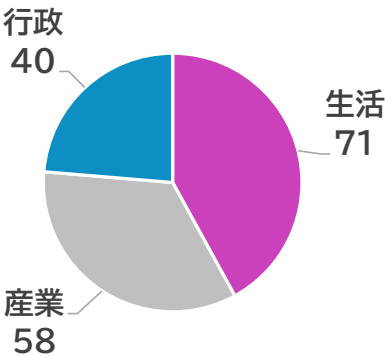
- ・ 事業廃止 …3件
- ・ 外的要因:不測の事象、外部環境の変化等によると思われるもの …1件

3 (4) 進捗状況ダッシュボード(部局別)

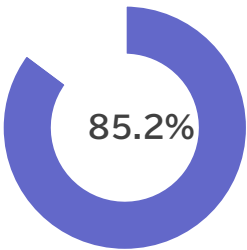
取組数

169

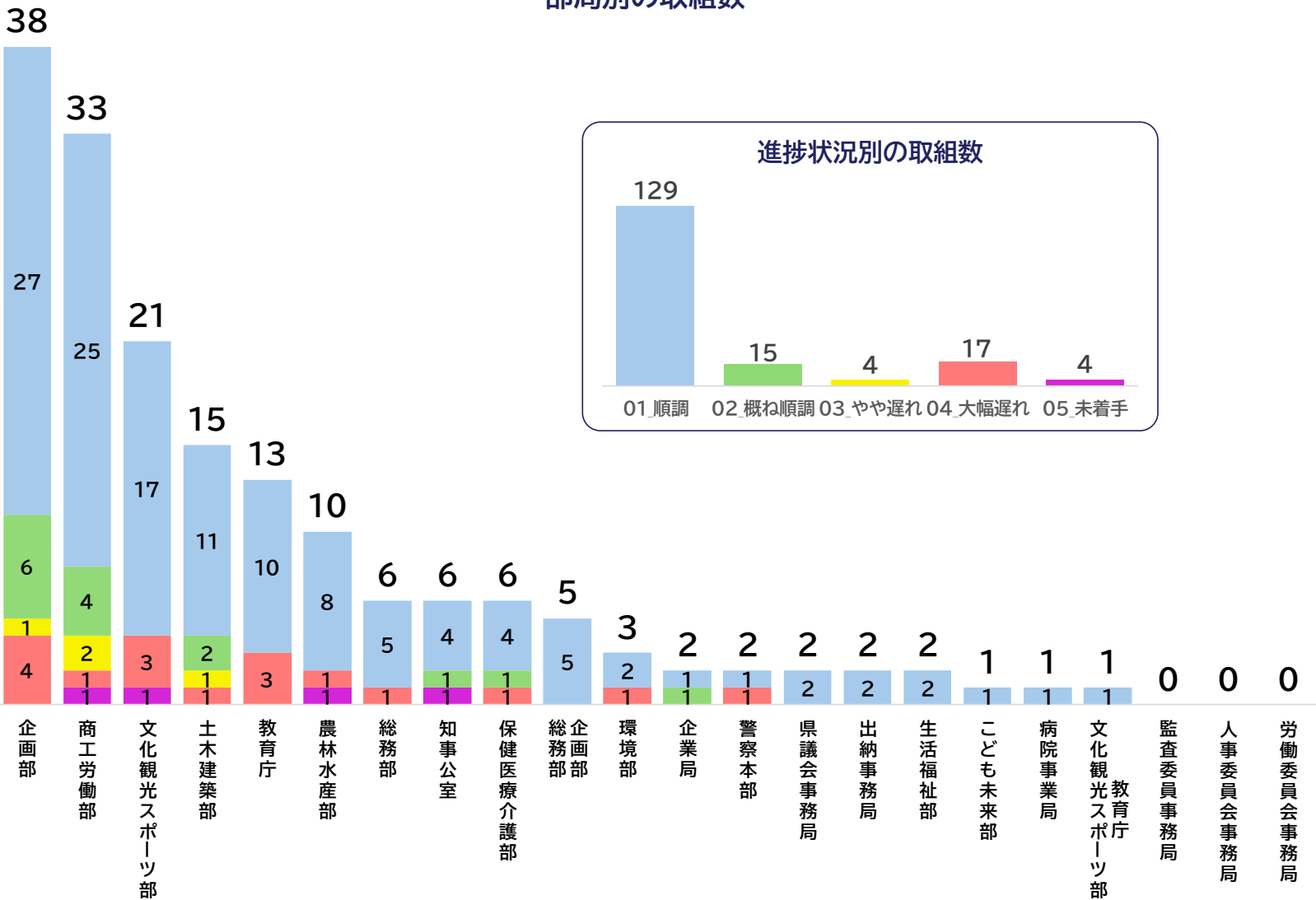
分野別の取組数



順調／概ね順調の取組の割合



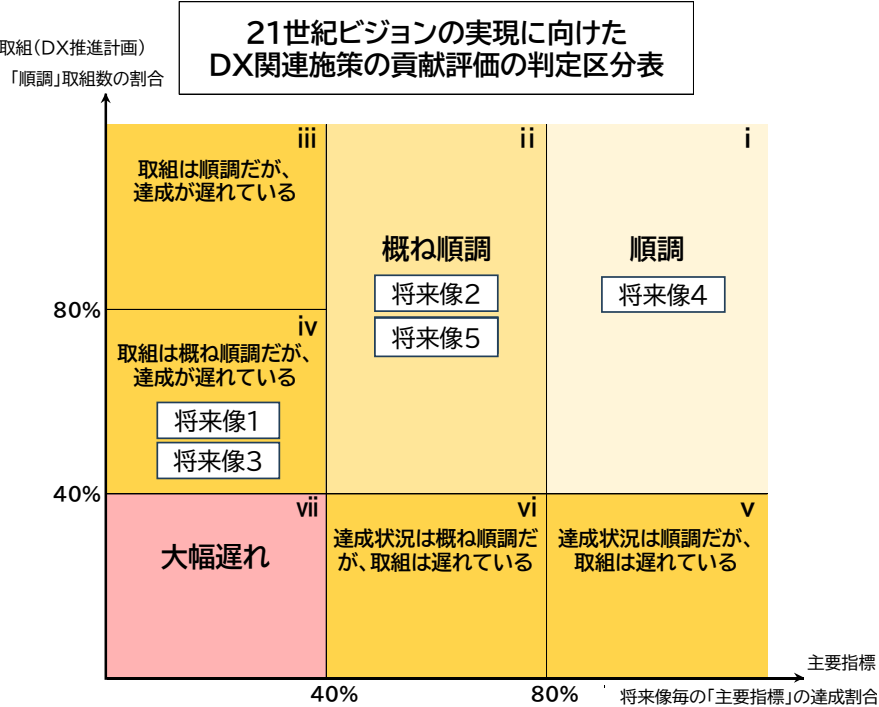
部局別の取組数



4 検証結果 | 評価視点2 沖縄21世紀ビジョンへの貢献

<概要>

- 評価視点2に基づく検証では、沖縄21世紀ビジョンの5つの将来像に、DX関連施策の取組(以下「取組」という。)がどのように紐付いているか整理するとともに、将来像毎の「主要指標」の目標の達成状況と、「取組」の進捗状況を踏まえ、DX推進計画の沖縄21世紀ビジョンへの貢献状況を判定した。
- 5つの将来像に紐づくDX関連施策の取組の進捗状況は、先述のとおり総じて順調であり、将来像毎の「主要指標」の目標の達成状況では、将来像2、将来像4及び将来像5については「i 順調」又は「ii 概ね順調」との判定となっており、沖縄21世紀ビジョンの実現に向けて、デジタルの面からの貢献が図られているものと考ええる。
- 一方で、将来像1及び将来像3については「iv 取組は概ね順調だが、達成が遅れている」との判定となっており、取組が主要指標の達成に十分に結びついていない可能性も考えられる。
- 沖縄21世紀ビジョンの実現に向けて、より貢献すべく、取組の改善を図るとともに、新たに実施すべき施策・取組の企画立案にも注力していく。



将来像1
沖縄らしい自然と歴史、伝統、
文化を大切にする島を目指して



- 主要指標の目標の達成 1件・20%
- 関連するDXの取組 18件
うち順調の取組 14件・77.8%

将来像4
世界に開かれた交流と
共生の島を目指して



- 主要指標の目標の達成 4件・80%
- 関連するDXの取組 11件
うち順調の取組 7件・63.6%

将来像2
心豊かで、安全・安心に暮らせる
島を目指して



- 主要指標の目標の達成 7件・50%
- 関連するDXの取組 22件
うち順調の取組 14件・63.6%

将来像5
多様な能力を発揮し、
未来を拓く島を目指して



- 主要指標の目標の達成 3件・43%
- 関連するDXの取組 23件
うち順調の取組 18件・78.3%

将来像3
希望と活力にあふれる
豊かな島を目指して



- 主要指標の目標の達成 7件・39%
- 関連するDXの取組 95件
うち順調の取組 76件・80.0%

5 検証結果 | 評価視点3 DXの推進の取組状況

<概要>

評価視点3に基づく検証では、経済産業省「DX推進指標」、(株)デジタルトランスフォーメーション研究所「自治体DX調査報告書」を参考に、「1 DX推進体制の整備」、「2 ITシステム基盤の構築・運用体制の整備」、「3 国の自治体DX推進計画への対応」といったDX推進に向けた取組の進捗状況について評価項目を設定し、事務局においてレベルA～Eの5段階※で評価した。

※ レベルA:定着/十分な水準、レベルB:継続して実施、レベルC:限定的に実施、レベルD:検討中/準備中、レベルE:未実施

[評価項目]

1 DX推進体制の整備	3 自治体DX推進計画への対応
(1) ビジョンの共有	(1) 自治体情報システムの標準化・共通化
(2) トップのコミットメント	(2) マイナンバーカードの普及促進
(3) 推進・サポート体制	(3) 行政手続のオンライン化
(4) 人材育成・確保	(4) AI・RPAの利用推進
2 ITシステム構築・運用体制の整備	(5) テレワークの推進
(1) DXを支えるITシステム基盤に関する方針	(6) 情報セキュリティ対策
(2) ITシステム構築のプロセス	(7) 公金収納におけるeL-QRの活用

[レベル判定基準]

レベル	基準
レベルA 定着/十分な水準	継続して実施しており、取組が定着又は十分な水準に達している状況
レベルB 継続して実施	継続して実施しているが、取組の定着に向けては改善が必要な状況
レベルC 限定的に実施	取組のうち一部のみ実施している/取組が不足している状況
レベルD 検討中/準備中	実施に向けた検討、準備が行われている状況
レベルE 未実施	取組が未実施の状況

5 検証結果 | 評価視点3 DXの推進の取組状況

評価項目		評価内容	評価結果
1_DX推進体制の整備	(1)ビジョンの共有	■DXの目的や必要性、方針について全庁で共有できているか。	【レベルB】 継続して実施
	(2)トップのコミットメント	■DXの推進に向けて、トップによる全庁への発信は行われているか。 ■トップのリーダーシップのもと、組織整備/改革や機運醸成等の取組等が行われているか。	【レベルB】 継続して実施
	(3)推進・サポート体制	■DX推進をミッションとする部署とその役割等が明確であるか。 ■DXの目的に向かって、トップ・事業部門・IT部門が相互に協力するとともに、外部の力も活用した推進体制が整備されているか。	【レベルB】 継続して実施
	(4)人材育成・確保	■職員のデジタルリテラシー向上に向けた取組が行われているか。 ■デジタル技術やデータ活用に精通した人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。 ■住民や事業者等の業務内容に精通し、デジタルで何ができるかを理解したDXの実行を担う人材の育成・確保に向けた取組が行われているか。	【レベルB】 継続して実施

注)赤字は昨年度から変更があったことを示す。

5 検証結果 | 評価視点3 DXの推進の取組状況

評価項目		評価内容	評価結果
2 ITシステム構築・運用体制の整備	(1)DXを支えるITシステム基盤に関する方針	■ITシステム基盤に関する全体方針は、全体最適の観点に加え、DX推進を見据えた内容となっているか。 ■ITシステム基盤の整備に関するロードマップは、DX推進に向け投資すべきもの、削減すべきもの、標準化や共通化すべきものが整理されているか。	【レベルC】 限定的に実施
	(2)ITシステム構築のプロセス	■ITシステムの構築において、現行業務フローやシステムの利用状況、技術の陳腐化の度合い、利用者視点等を加味し、評価・分析等を行うプロセスが整備されているか。 ■ITシステムの運用において、定期的に利用者視点や技術の陳腐化の度合い等を評価・分析し改善を図るプロセスが整備されているか。	【レベルB】 継続して実施

注)赤字は赤字は昨年度から変更があったことを示す。

5 検証結果 | 評価視点3 DXの推進の取組状況

評価項目		評価内容	評価結果
3_自治体DX推進計画への対応	(1)自治体情報システムの標準化・共通化	■自治体の情報システムの標準化・共通化に向けた取組状況	【レベルB】 継続して実施
	(2)マイナンバーカードの普及促進	■マイナンバーカードの普及促進に向けた取組状況	【レベルB】 継続して実施
	(3)行政手続のオンライン化	■自治体の行政手続のオンライン化に向けた取組状況	【レベルB】 継続して実施
	(4) AI・RPA の利用推進	■AI・RPAの利用推進に向けた取組状況	【レベルC】 限定的に実施
	(5)テレワークの推進	■テレワーク制度の導入状況/利用推進に向けた取組状況	【レベルC】 限定的に実施
	(6)情報セキュリティ対策	■CISOの任命・CSIRTの設置状況 ■緊急時対応計画(情報セキュリティに関する事故及び障害等が発生した場合の体制と対応手順)の策定状況 ■情報セキュリティ監査・点検の実施状況	【レベルB】 継続して実施
	(7)公金収納におけるeL-QRの活用	■公金収納におけるeL-QRの活用に向けた取組状況	【レベルC】 限定的に実施

注)赤字は昨年度から変更があったことを示す。

6 計画の更なる推進に向けて

<改善プロセスの継続>

- 次年度以降も、知事を本部長とする沖縄県DX推進本部のもと、PDCA検証を実施し、課題の共有や更なる計画の推進に向けた協議を行う。
- PDCA検証の際には、DX関連施策・取組の進捗状況などに加えて、前年度検討した改善案の有効性についても検証の対象とすることで、より効果的な改善策の考案、実施に向けたプロセスの定着を図る。
- 検証結果については、県民や事業者等、多様な主体の参考となるよう、引き続き、全面的にオープンにする。

<DX推進の心得の浸透>

- 令和6年2月に策定した「DX推進の心得7箇条」については、DXに向けて、全庁で推進に向けた考え方、取るべき行動を共有することを目的とするものであり、その定着を図ることは本計画の更なる推進を図るうえで重要であるものとする。
- そのため、知事、CDO又はCDO補佐官による継続的な発信等により、DX推進に向けたビジョン、心得の定着を図り、全庁的なDX推進の機運醸成や主体的な取組の促進につなげていく。

<職員のデジタルリテラシー等の向上>

- 計画の更なる推進に向けて、外部デジタル人材の力を借りることで、庁内に不足しているデジタル技術に関する専門的な知識経験を補うことは必要不可欠であるが、それとともに、内部人材の育成も重要であることから、職員の能力向上に向けた取組の充実を図っていく。
- 具体的には、沖縄県デジタル人材育成方針に基づき、全職員のデジタルリテラシー向上に向けた階層別研修、DX推進のキーマンの育成に向けた研修など、体系的な取組の充実を図っていく。